

## 陸前高田市立気仙中学校

2014年 12月 16日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

- (1) 「saveMLAK博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報」 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 「陸前高田市東日本大震災検証報告書:資料編」陸前高田市  
<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/bousai-syoubou/shinsai/shiryou.pdf>

### 【場所】

広田湾から約30mの位置にある。また、気仙川河口の川岸の場所である。

住所:岩手県陸前高田市気仙町小淵77-1

- ※第一中学校と統合して開校になった  
旧矢作中学校校舎に移転して再開。



### 【東日本大震災による被害】

津波により校舎は全壊。(1) ※校舎は震災遺構として保存される見通し。

### 【震災当日の様子】

体育館で卒業式の練習を全校生徒で行っていたところ、地震が発生した。地震の揺れがおさまるのを待ち、独自に設定した避難所へ運動着、上履きのまま国道45号の歩道を通って避難した。普段は学級ごとに避難するがこの日は全校生徒で避難した。避難所に到着後、整列して点呼を行い、その後、二日市公民館へ移動した。二日市公民館は定員50人程度であったが、市民を含めて約200人が避難していた。二日市公民館で、近隣に住む数人の生徒を保護者へ引き渡した。二日市公民館では地域住民から食料、毛布などが提供された。残った生徒と教職員は二日市公民館で一泊した。翌3月12日の午前中に自宅が無事だった数人の生徒を帰宅させ、昼過ぎに二日市公民館から長部小学校へ移動し、男女別に教室を借りた。長部小学校に迎えにきた保護者には、名前、避難先を確認し、紙に記録して引き渡した。(2)

### 【調査して言えること】

学校の標高は13mほどで、学校の敷地が気仙川の河口の川岸になっており、海から30mほどしか離れておらず、地震の際に津波を想定した迅速な避難が必要な学校である。

学校が独自に指定していた避難所は、国道45号線沿いに校舎から200mほど進んだ場所にある空き地で、標高は約10mである。標高は学校の敷地よりも高いが、海からは100mも離れておらず、安全な避難場所とは言えない。次に避難した二日市公民館は学校から南西に600mほど離れた山中にあり、標高は17mほどであり、さらに高い場所にもすぐに逃げることでできる場所である。

学校からは海がよく見えるため、日頃から津波が意識されやすい学校だったと考えられる。また、学校横の道路である国道45号線沿いに山があるため、学校外への避難がしやすい学校である。



南から見た学校(2014/3/17撮影)

※手前に盛り土があるため分かりにくいですが、3階建ての校舎である。



学校が独自に指定していた避難所(2014/3/17撮影)

※校舎から200mほど離れた場所にある。